

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	1278400096
法人名	医療法人美篤会
事業所名	グループホーム安房穂
訪問調査日	平成 21 年 1 月 30 日
評価確定日	平成 21 年 2 月 21 日
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1278400096
法人名	医療法人美篤会
事業所名	グループホーム安房穂
所在地 (電話番号)	〒299-2703 千葉県南房総市和田町仁我浦19-7 (電話) 0470-47-5556

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	〒113-0021 東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年2月21日

【情報提供票より】(平成21年 1月 8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 9 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 9.8 人	

(2)建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:5年)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4)利用者の概要(1月 8日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.3歳	最低	66歳	最高	100歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	中原病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護療養型病床群を有する病院の敷地内に作られた住宅を改築した家庭的な雰囲気一杯のホームです。高齢者介護に力を注いでいる病院、及び歯科医院に隣接しているので、医療ケアに関する安心感は抜群です。建物は2階建てですが、エレベーターを備えているので、2階の居室の利用者も行き来が容易かつ安全です。また、広い浴室に大きな浴槽、湯は温泉と他のホームでは望むべくもない環境の下で気持ちよく入浴が楽しめます。利用者はそれぞれの持てる能力に合わせて、職員と一緒に食材の買い物に出かけたり、家事を分担したりして思い思いのペースで暮らしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念および健康管理についてそれぞれ1項目、運営体制について4項目の課題が挙げられました。職員のミーティングや運営推進会議を通じて改善策を話し合い、毎月「安房穂便り」の発行による情報の発信、応急手当等看護面の勉強、ヒヤリ・ハット事例の研究、地域との交流・情報の還元等において徐々に成果を上げてきています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員のミーティングで自己評価を行うこと、各項目に目を通すようにと話はしましたが、実際の評価作業は管理者が行いました。従って、自己評価についての理解度は職員によりバラツキがあります。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は3ヶ月に1回を目途に開催するようにしています。直近2回の会議では、ホームの現況等ホーム側からの一方的な報告に止まらず、地区区長代理、老人会会長、地域包括支援センターや家族等の出席者と、認知症について活発に話し合っています。話し合いの結果から、近々管理者が地域包括支援センターの職員と一緒に、老人会の集まりで認知症についての話をする事になり、地域に対する貢献活動につながっています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	日頃から話しやすい環境づくりを心がけており、面会の為の来訪時に意見を聞いたり相談に乗るようにしています。運営推進会議でも家族の意見を聞く機会があります。今回実施した家族アンケートでも、それほど不満は出ていません。むしろよく面倒を見てくれる等感謝の言葉が出ています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	開設後3年、まだまだ地域との連携が密接になっているとは言えませんが、小学校の運動会に招かれたり、地域の祭礼見物に出かけています。また、運営推進会議には地区区長や老人会長、民生委員の出席が得られるようになり、その結果、認知症についての知識・介護経験豊かな管理者が、地域の老人会で近々認知症についての話をする事が決まり、地域との連携を強めるきっかけとなることと期待されています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「グループホーム安房穂は入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思える介護に専念することとする」との独自の理念を掲げています。しかし、地域の中でのホームという観点がまだ付け加えられていません。	○	グループホームが地域密着型サービスとして位置づけられるようになったのを踏まえて、地域との関係を重視する理念とするよう求められています。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念は、誰でも見やすいようにリビングルームに掲げ、普段の職員ミーティングにおいても折にふれ意識するように働きかけていること、理念が日々の介護に即しているものであることもあり、意識するとしないとにかかわらず、日々の実践の中で生かされているものと見受けられます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設後3年、地域との関わりは小学校の運動会に招かれたり、地域の祭礼見物に出かけている程度です。しかし、運営推進会議に地区区長や老人会長、民生委員の出席が得られるようになり、管理者が、地域の老人会で近々認知症についての話をすることが決まるなど、地域との交流が進み始めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員のミーティングで自己評価を行うこと、各項目に目を通すようにと話はしましたが、実際の評価作業は管理者が行いました。従って、自己評価についての理解度は職員によりバラツキがあります。	○	外部評価は職員の教育にとっても良い機会です。自己評価の作業に積極的に係わらせることにより、改善への意識も高まり、サービスの質の向上につながると思われます。また、今回の外部評価の結果を職員と共に全員の問題として捉え、改善に向け努力するよう期待されます。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地区区長(代理)、老人会会長、民生委員、地域包括支援センターの介護支援専門員等の参加を得る事が出来、認知症に関する知識・情報の交換の場となり、積極的に意見を交しています。メンバーには会の終了後利用者の米寿祝いの昼食会にも参加してもらうなどして、利用者との交流にもつなげています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町村の合併もあり、現在のところ市の担当者とは直接話し合う機会はありません。しかし運営推進会議に地域包括支援センターの介護支援専門員の出席を得る事が出来、同専門員を通じて行政との問題等の解決へのルートができて上がっています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	前回の外部評価の結果も踏まえ、月に一度写真をふんだんに盛り込んだ「安房穂便り」を作成し家族に送るようにしています。金銭管理の報告も出納帳の写しを送り請求書と共に送付しています。家族アンケートでは、報告が「ときどきある」としている人が半数あり、個別の情報発信が必要と思われます。	○	「安房穂便り」は作成に手をかけた素晴らしいものですが、ホーム全体の活動についての報告なので、その余白に本人個人の生活ぶりを一言添える等ひと工夫凝らせば家族の安心感も一層増すものと思われます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から話しやすい環境づくりを心がけており、面会の為の来訪時に意見を聞いたり相談に乗るようにしています。運営推進会議でも家族の意見を聞く機会があります。今回実施した家族アンケートでも、それほど不満は出ていません。むしろよく面倒を見てくれる等感謝の言葉が出ています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営母体に対し職員の異動をできるだけ避けるよう働きかけたり、職員同士の和を保つように尽力してきたこともあって、最近職員が定着してきています。その結果全員が利用者や馴染みの関係を築いてきており、たとえ一人が交替するような事態が起こっても利用者へのダメージは最小限に抑えることが可能と思われます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は県や市の主催する各種研修に職員の能力の段階に応じて仕事として派遣(研修を受講)するようになっています。例えば千葉県高齢者権利擁護・身体拘束廃止研修に4人出席せしめたりしています。内部研修は、外部研修の結果報告や雑誌の記事等を基に行うこともあります。	○	多忙なため職員の育成はどうしても疎かになりがちです。新人が入った場合に備えOJTも含めた計画の作成、および、現任職員に対する研修の年間計画を立て、計画的に研修を進めるようにすることが大切です。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1年に1回6ホームで構成する鴨川市のグループホームの集いに参加し、技術の向上、事例に基づく研究、悩みについての話し合いをする他、地域包括支援センター主催の介護支援専門員連絡会にも参加しています。また、同一法人運営のもう一つのホームと利用者を含めての交流を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域密着型サービスの特徴を活かし、利用開始前にスタッフが家庭訪問をしたり、利用者や家族に施設を見学してもらったりして、徐々に人間関係を築きながら、サービスの利用を開始しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩であるという考えをスタッフは持っており、常に寄り添いながら共に過ごし、お互いに学び、支え支えられる日常の生活になっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	帰宅願望のある利用者には、さりげく散歩に連れ出し道端の花や海を眺めたりしているうちに本人が自分から帰ろうと言いつつなど、利用者に添うようにして言葉や表情などから真意を推し測ったり確認をしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを含め職員全員での意見交換や半年に1回のモニタリングを行い、生活援助計画を作成しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時から6ヶ月ごとに介護計画を作成しています。計画を作成した時、家族に説明をしています。見直し後の変更プランも作成しています。	○	小規模できめ細かいケアが特徴の地域密着型サービスでは、期間にとらわれず変化に応じて、本人や必要な関係者と話し合い、その時々気づきや意見を最大限反映させながら臨機応変に計画を変更していくことで、現状に即した介護計画としていくことが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じてスタッフが通院支援を柔軟に行っています。また、たとえば骨折して入院が長引いている利用者には、リハビリを受けながら施設での生活に戻れるよう早期退院の支援をする等しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは運営法人が同じ病院の敷地内に隣接していますが、本人、家族の意向に沿ったかかりつけ医での受診や通院をしており、受診結果の情報を共有しています。また受診結果を家族に電話で報告をしています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設から同じ法人の病院の療養型病床に移ることも可能です。同じ敷地内の病院から協力が得られ、往診医(医局)看護師、介護士が連携して平成20年10月にはガン末期の看取りを行っています。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員はプライバシーに関することは話さないよう、常に秘密保持の徹底が図られています。日々の関わりの中でさりげない言葉かけや対応に配慮しており、調査当日には、人前であからさまにプライバシーを損ねるような介護場面は見受けられませんでした。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	暮らしの主体は「利用者さん」と考えて、部屋に戻って横になってしまう等、一人一人の動きや状態に合わせて利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるよう、さりげない声かけをして暮らしを支えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁使いの上手な利用者にはその力を発揮してもらっています。調査当日も、調理や盛り付けを一緒に行なったり、職員も一緒に鍋料理を楽しむことや献立の会話を等、食事への関心を引き起こすための言葉かけをしていました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には毎日午後2時から可能で、就寝前も可能ですが、殆どの利用者は1日おきの入浴を楽しんでいます。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	庭に花を植えるなど自然に触れながら気分転換を図ることや洗濯など体で覚えこんだ記憶を一緒に行なう等利用者の経験が発揮できるよう利用者主体に支援がなされています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自ら外出希望などの声は出ませんが、天気の良い日には散歩や隣接する病院の屋上で海を眺めたり、その日の食材の買い物に職員と一緒に出かけたり、お茶時に買い物をしたりと、日常的に外出を支援しています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関が死角になっている為、外部からの進入防止の為日中は施錠しています。しかし、居間からは自由に外へ出られるし、個室の窓も日中は鍵をかけず、一人一人の行動を見守りながら鍵のかけないケアに取り組んでいます。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度協力病院の防火管理者の指揮の下火災訓練を行っており、いざという時は同病院からの応援も得ることが期待できます。防火管理体制の強化のために管理者は甲種防火管理者の研修も終わっています。食糧・飲み水等の備蓄は特には行っていません。	○	年に一度は夜間の避難訓練等独自の訓練を行い万全を期すことが望まれます。また、万一の場合に備え、3日分程度の備蓄や防災グッズを備えておくことが必要と思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表に一日全体を通して入浴、食事・水分摂取量、バイタルチェックの結果等まとめてあり、職員全員が点検できるようにしており、一人一人の状態に応じた支援がなされています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関とリビングには季節の花を活けており、夏冬の季節に合わせて絨毯や部屋の模様替えも行っているということです。カーテンで光の調節をしたり、換気にも気をつけています。リビングの他にも談話室や廊下に椅子を置くなどして思い思いに過ごせるように工夫をしています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドで寝起きする人、畳の部屋で布団の生活の人等様々です、その他の家具や布類・布団等はこれまで使い慣れたものを持ち込んでおり、壁にカレンダー・写真・絵等を飾って自分の部屋の雰囲気をそれぞれ作り出しています。		